

平成3年度県内で発生した魚病について

1. マダイ稚魚のオクロコニス症

- (1) 発生地区 県内各地域において発生
- (2) 時期 種苗網入れ時
- (3) 被害 数尾から数十尾程度のへい死
- (4) 経過 蔓延することなく種苗時の感染魚のみのへい死

2. マダイ稚魚の類結節症

- (1) 発生地区 H漁協、Y漁協
- (2) 時期 4月下旬から5月
- (3) 被害 放養魚の半数程度のへい死
- (4) 経過 ほとんど感染したが水温上昇とともに、治ったようである。

3. ハマフエフキ2年魚の不明病

- (1) 発生地区 Y漁協
- (2) 時期 3月下旬から4月
- (3) 被害 数十から数百尾程度のへい死
- (4) 経過 計算すると放養密度が高かったので分養し、密度を下げると治った。

4. シモフリアイゴ2年魚の細菌性疾病

- (1) 発生地区 K漁協
- (2) 時期 7月中旬
- (3) 被害 ほとんどへい死（一部出荷）

5. シモフリアイゴ当年魚の不明病

- (1) 発生地区 I漁協、O漁協、U漁協
- (2) 時期 12月
- (3) 被害 ほとんどへい死（一部出荷）
- (4) 経過 症状、へい死状況は3地区とも同様である。

6. シモフリアイゴ当年魚の細菌性疾病

- (1) 発生地区 N漁協
- (2) 時期 8月下旬

- (3) 被害 数百から数千尾へい死
(4) 経過 繼続的に投薬すると一応治った

略報

7. マダイ当年魚の不明病

- (1) 発生地区 Y漁協
(2) 時期 9月下旬から11月
(3) 被害 放養魚の9割程度のへい死

* 症状等から白点病と推定される。

8. マダイ2年魚の白点病

- (1) 発生地区 Y漁協
(2) 時期 1月上旬から2月
(3) 被害 放養魚の9割程度のへい死
(4) 経過 飼止めし、沖出したものは治った。

参考資料

病害原因

マダイの白点病は、主として放養魚で発生する。この病害は、マダイの仔魚や若魚に多く見られるが、成魚でも発生する。病害の原因としては、細菌感染によるものと、ウナギ病の影響によるものがある。細菌感染による場合は、細菌の種類によって異なるが、一般的には、*Vibrio anguillarum* が原因となることが多い。ウナギ病の影響による場合は、ウナギ病の原因細菌である*Vibrio cholerae* が原因となる。

マダイの白点病は、主に放養魚で発生する。この病害は、マダイの仔魚や若魚に多く見られるが、成魚でも発生する。病害の原因としては、細菌感染によるものと、ウナギ病の影響によるものがある。細菌感染による場合は、細菌の種類によって異なるが、一般的には、*Vibrio anguillarum* が原因となることが多い。ウナギ病の影響による場合は、ウナギ病の原因細菌である*Vibrio cholerae* が原因となる。